

名寄市での看護の学び

私たちの学年は、入学の年に新型コロナウイルスの流行が始まり、例年通りの

実践的な教育をうけることが、今までの先輩方と比べて少なかったと思います。しかし、コロナ禍という初めての状況下にも関わらず、感染対策を行いながら例年に劣ることの無い教育が受けられるよ

うに、大学ではたくさんの方の工夫と配慮をしてくださいます。

本年度は、病棟実習が実現し、臨床の場で専門領域の看護を学ばせていただけるとの機会を感じました。実習中には、入院患者さんを実際に受け持たせていただき、その方に必要な看護を臨床指

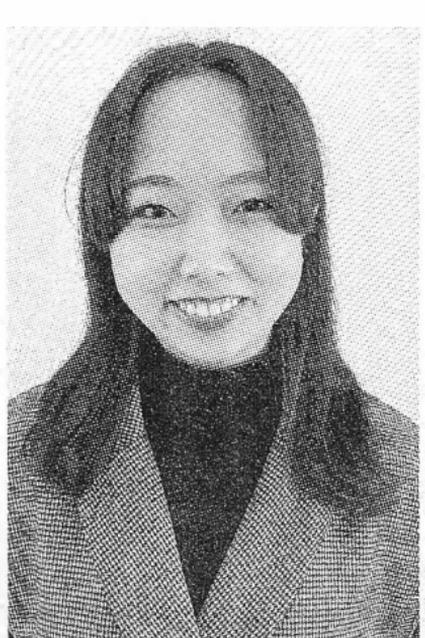
導者さんや学校の先生のご指導をいただきながら、自ら考え、実施しました。

そこから私が学んだことは、患者さんに関わらせていただくことの責任の重さです。現在、病院内はコロナ禍のため患者さんはご家族との面会が制限されています。しかし私たちは、看護実習生という立

場から患者さんに関わらせていただく機会に恵まれました。

患者さんとの関わりを通して、看護師はご家族の代わりにはなれなくとも「病院で最期のときを迎える際にこの人にそばにいて欲しい」と思っていただけのような存在であるべきだと実感しました。

看護師として疾患や治療、看護に関する知識・技術を身につけることはもちろん大切なことですが、



患者さんのことを誰よりも理解しようとする姿勢、その方の望みを叶えようとする姿勢も重要であると実習を通して気づくことができました。

この貴重な学びの機会を与えてくださ

った名寄市の皆様に感謝し、看護専門職として恩返しができるように残り少ない学生生活を過ごしていきたいと思います。

看護学科3年

石井はるか